



学校法人  
鎌倉女子大学

## 横澤 彪さんのこと

児童学部子ども心理学科の教授としてお勤め下さった横澤<sup>たけし</sup>さんが肺炎のため、この1月8日亡くられました。元日に頂いた賀状には転居予定の記載もあり、お変わりなくお過ごしのことと置いていたところの突然の訃報でした。晩年の横澤さんを苦しめた悪性リンパ腫の進行によるものならば、さぞ厳しい毎日だったのではないかとも思われましたが、年末・年始とわりとお元気で、近所のお宮で大吉のおみくじを引き、「今年はいいや」とおっしゃっていたそうですから、73歳、早すぎるご逝去であるのはその通りとしても、それでもややホットした気持ちにもなりました。

タモリ、ビートたけし、明石家さんまといった飛ぶ鳥を落とす勢いの当代の才人たちを初め多くのタレントを世に送り出し、名プロデューサーとしてテレビ界に燦然とした足跡を残されたことは、今さら私がここで紹介するまでもなく、連日にわたり報道されたところですが、朝日新聞の夕刊コラム「素粒子」は、横澤さんの名前を繰り返しながら、その才能を惜しみました。

横澤さんとの仲を取りもって下さったのは、元アエラの編集長で、現在J-キャスト代表取締役をお務めの蜷川真夫さんでした。東大時代の同級生であった蜷川さんに「自分は人生三段ロケットでいくんだ。第一段はフジテレビ、二段目は吉本興業、そして第三段は大学教授、それも女子大学の教授がいい、是非若い人たちと一緒に仕事をしたいんだ。でも、出来れば、お茶大とか、津田塾ではないところがいい、あっちの方は怖いからね」と、「それなら、僕の叔母が鎌倉女子大学の理事長をしているので紹介しようか」ということになったわけです。そんなわけで、平成14年から20年まで、「メディア文化論」、「メディアクリエーション」、「ビジネスの心理学」などを担当して下さいました。

あれほどのインテリで、才能あふれる人なのに、いつも力がぬけた自然体で、その知性や実力を他人に<sup>こよ</sup>殊さら披瀝するようなことは決してなさらない含<sup>がんしゅう</sup>羞の人とも、自分の力量をあからさまに露出するなどということは自分の知性が許さないといった抑制の人とも、むしろ奇妙な<sup>たよ</sup>譬えに聞こえるかも知れませんが、大変な剣豪であるにも拘わらず、才知にたけたユーモアで戦わずして相手を制してしまう、芸能界の塚原ト伝のような人であったのかも知れません。実際、そのお名前は、戦後芸能史に強く刻印されていくことでしょう。

「笑っていいとも」の司会者にと横澤さんが白羽の矢を向けたタモリが自分のサークルに集まる面々に求める姿勢は、「ヤル気のある者は去れ！」だそうですが、<sup>アイロニー</sup>皮肉と<sup>エスプリ</sup>機知を<sup>き</sup>効かせた笑いの中で事の本質を裏側から言いあてるその物言いは、彼ら天才たちのみに許され、彼ら天才たちのみがよくなし得る脱力の姿勢なのかも知れません。本当に難しいのは、悲劇を演じることなのか、喜劇を演じることなのか、私には判りませんが、はっきりして

いることは、どちらも真剣勝負であろうということです。

優しい心配りが行き届いた方で、折に触れて必ずカサブランカの花を贈って下さいましたが、そんな時お礼を申し上げると、軽く手を振りながら、「いえ、ちょっと、いや、いや」という程度のご返事で、それが如何にも横澤彪という方でした。時折、プライベートに食事をする機会がありましたが、かつてそうした席で、「いや、足がパンパンに張ってしまって」とズボンをたくし上げて見せてくれましたが、それが横澤さんを苦しめることになったリンパ癌の前兆であったようです。外気から身を守るソフト帽は、その後の横澤さんのトレードマークになりましたが、ということは、相当緊張した健康管理を強いられていたことと察せられます。

ご退任の折、都心のとある料理屋で蜷川さんと私と家内でお礼方々横澤さんを囲んだのが直接お目に掛った最後となってしまいました。お身体のことには話が及ぶと、「ちょっとね、ちょっと厳しいところもあるんですが、でもちゃんとお医者さんのいうことを聞いていれば、大丈夫なんですよ、ハ、ハ、ハ」と。でも、このさり気ない語り方は、横澤さんらしい病気との苦しい闘いの吐露であったのかも知れません。

すっかり恒例となったみどり祭の「よしもと お笑い LIVE in 鎌倉」も、横澤さんの遺産です。来年もきっと学園祭で「よしもと お笑い LIVE」が企画されることでしょう。

お通夜の席で奥さまが「楽しくお仕事をさせて頂きまして」とおっしゃって下さいました。蜷川さんは、「四段ロケットはまだ飛んでいる」とJ-キャストニュースのコラムに書いておられました。

キャンパスで学生たちに囲まれながら、「今、メディアクリエーションの授業で、学生たちと鎌倉女子大学の商業フィルムを作っているんですよ」と、笑いながら近づいてこられる先生のお元気な姿が印象的です。

横澤彪先生のさまざまなお心遣いとお力添えに感謝しつつ、ご冥福をお祈りします。

[>前のページへ戻る](#)